独立行政法人 福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業

10代の子どもたち(中高生)の子育て支援ボランティア養成と おとなのサポーター養成事業

2004 報告書

KIDSAGE21 もっと、こどもたち

主催 特定非営利活動法人
子どもNPO・子ども劇場全国センター

Contents

10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成と おとなのサポーター養成事業

1	ごあいさつ
2	北海道／おとなのサポーター養成講座
3	広　島／おとなのサポーター養成講座
4	北海道／10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成事業
6	東　京／10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成事業
8	兵　庫／10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成事業
10	広　島／10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成事業
12	山　口／10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成事業
14	講師からのメッセージ
15	この事業を通してみえた子どもの現状
16	参加者の感想
18	今後の課題と展望

事業目的

平成15年「次世代育成支援対策推進法」が成立し、次世代を育む親となるための施策として、「中高生が乳幼児とふれあう機会の拡充」「子育てに関する理解の促進」などがうたわれています。

本事業では、乳幼児とふれあう体験事業は、子どもたちの子育て支援・子どもの社会参画としてこの事業をとらえ、子どもたちが日常的に地域社会の子育て支援システムに参画し、子育て支援ボランティア体験をすすめるために必要なサポート環境を全国的につくりだしてゆきます。また、地域の子育て支援団体や地方行政と共に、10代の子どもたちと、おとなによる新たな子ども・子育てNPOのネットワークづくりの機会にしてゆきます。

事業内容

1 10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成をすすめる おとなのサポーター養成講座

10代の子どもたちが主体的に参加する子育て支援ボランティアを広げるために、乳幼児と関わる上での専門性とともに、10代の子どもたちの立場にたって子育て支援の体験をとらえ、自主性を引き出し、社会性を培っていけるようにサポートするおとなの養成講座を実施。

2 10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティア養成講座

10代の子どもたちが乳幼児と接する体験を重ねるとともに、子育て支援のマインドを培い、スキルアップのための講座、安全に関する講座、遊びやものをつくるワークショップなどを実施。

3 10代の子どもたち（中高生）の子育て支援ボランティアの実践

親子連れの催しや子育て支援の拠点、または保育園・幼稚園などを活用し、乳幼児と親の協力者を呼びかけ、10代の子どもたちの子育て支援ボランティアを実践。

ごあいさつ

今回の事業では、10代の子どもたちが乳幼児と関わる上での専門性を身につける事とともに、子育て支援ボランティアの体験を通して自主性や社会性を培うことを目的に養成講座を組みましたが、その中の大きな目的の一つが“赤ちゃんの生命と向きあうことで、自分自身の生命と向きあう”ということでした。

終了後、「赤ちゃんを抱っこするのがこんなに大変だとは思ってもいなかった。手がつりそうだ」「お母さんは偉大」、「赤ちゃんはしゃべれないから何を考えているのかわからなくて困った。でもこっちがわかろうとしてあげないとダメなんだなと思った」などの子どもたちの感想にみられるように、赤ちゃんを育てる大変さ、楽しさ、そして、自分自身がそうやって親に育てられてきたことを実感したようです。

「17歳」に象徴される10代の子どもの事件が起こるたびに「子どもたちに生命の大切さを」との声がありますが、ただ、それをどのような手立てで、となると難しいのも事実です。自分で自分をあやめる自傷行為も他人への暴力や殺人などの行為も、その根っこは同じ、自己肯定感や自尊感情の欠如からくるものが大きいわけで、自分自身の生命の肯定なしに、赤ちゃんの尊重はありません。

この事業で「お母さんから離れる前から泣いていたので、どうしようかと思ったけど、目が覚めた時、私の顔をみて手を出してくれたので感動した」「ギュッと握って自分を離さない赤ちゃんに出会って涙がでそうになった」などの感想や、子どもを預けた親たちから喜ばれたりすることで、10代の子どもたちの自己肯定感を育む場にもなりました。そのことを通して子どもを産み育てることへの期待感や、講師や親だけにとどまらず、広く人間に対しての信頼感へとつながっていく、その第一歩にもなったようです。

全体的には、①子どもたちのボランティア体験を通した社会参画の場になったこと ②赤ちゃんと出会う中で、子どもたち自身が自分の生命と向きあったり親になることへのイメージがもてたこと ③ 生命を育む大変さと楽しさを実感する中で、親はもちろん身近なおとな、地域社会への信頼が広がったことなど、大きな成果がありました。また、10代の子どもたちだけでなく、赤ちゃん、両親、支援者、地域の皆さんなど、地域での子育てを考える多様な人々にとっても、大きな可能性が感じられる事業になりました。

このように本事業の有効性を実感するだけに、この体験が一部の子どもたちだけではなく、このプログラムを改善して、すべての子に届ける必要性を強く感じました。

最後にこの機会を与えてくださった独立行政法人福祉医療機構、また各地で子どもたちと向きあい、育んでくださった講師の皆さん、そして地域でこの実施のすべてを支えてくださった実行委員の皆さんに心から感謝申し上げます。

福田　房枝　　特定非営利活動法人　子どもNPO・子ども劇場全国センター　専務理事
Fukuda Fusae

おとなのサポーター養成講座

北海道
広島県

北海道6講座

実施団体　特定非営利活動法人　こども・コムステーション・いしかり
実　施　日　2004年12月26日（日）　参加人数　のべ174名

	日時	講座名	講師	
講座1	12月26日（日）	「10代の生と性」	安達　倭雅子氏	NPO法人チャイルドライン支援センター 常務理事
		正しい性の知識　（科学としての性知識）をおとなが知らないために、子どもに伝えることができない。基本的質問として10問出されたが全問正解者はいなかった。おとなも、子どもも性的学力をつける必要があると実感した。		
講座2	12月26日（日）	「いのちの尊厳」	安達　倭雅子氏	NPO法人チャイルドライン支援センター 常務理事
		子どもが質問する「赤ちゃんはどこから生まれるの?」「どうしてパパに似ているの?」などは、知的発達に伴うもので、きちんと答えなくてはいけない。セクシャルアイデンティティーとは、ジェンダーとはという話を聞いた。		
講座3	12月26日（日）	「10代の子どもたちの現状」	山内　亮史氏	旭川大学学長
		家庭・学校・地域という共同体の機能低下により、直接的人間関係がブツ切れにされ、子どもたちは社会というそれぞれでの居場所を失っている。家庭だけでは、悩みを解消できない状況を改めて感じた。		
講座4	12月26日（日）	「子どもたちは今」	山内　亮史氏	旭川大学学長
		子どもは育っていく過程で他人を受け入れ、他人と自分が内面で対話をしていく「超自我」の形成をしていくが、これを学ぶ時と場所のバランスがかけている。その解決にはおとなが地域の教育力を高め、社会との接点を作る必要があることがわかった。		
講座5	12月26日（日）	「命の声を聴く 自己尊重ワークショップ ～フィーリング トレーニング～」	手塚　千砂子氏	NPO法人自己尊重プラクティス協会代表理事 心のレッスンルーム「心のジム　テツカ」主宰
		自分の命、自分の存在を尊重する気持ち（自己尊重感、自尊感情）を高めることは、生きていく力や愛を大きく育てていく。自己尊重、自己肯定することで、他者との関わりも変わっていくことを感じた。		
講座6	12月26日（日）	「命の声を聴く 自己尊重ワークショップ ～ラブライフ トレーニング～」	手塚　千砂子氏	NPO法人自己尊重プラクティス協会代表理事 心のレッスンルーム「心のジム　テツカ」主宰
		自分の持っているプラス面に目を向ける練習（良いところ探し）や、他者を褒める、褒められることで認め合うことの心地よさを体験した。また、腹式呼吸をしながら体の力を抜き体に対して感謝の気持ちを向けることで、体からの返事（反応）を感じる練習をした。ゆったりと流れる時間で心も体もリラックス		

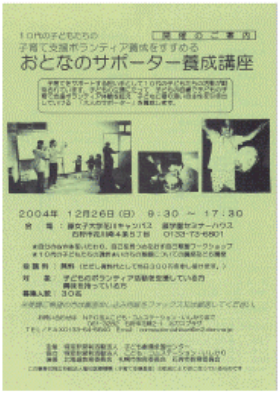
事業を終えて

広報としては10代の子どもたちの養成講座の案内とともに全道の中学校・高校に要綱を送付した。

さらに石狩市近郊の札幌市、江別市、小樽市の子どもに関わる市民組織、NPO、また2003年に実施した子育て支援NPO指導者研修会（2003年11月15日、16日主催厚生労働省・こども未来財団／石狩市において）参加団体にも案内をした。講座内容の「10代の生と性」「セルフエスティーム」に興味をもった方が多く、年末にもかかわらずすぐに定員となった。

子どもたちをとりまく現状を理解するとともに、サポートをしたいと考えている自分自身や家族との関係性にまで思いを深められた講座だった。

アンケートには「命の尊重ということが、すべての根元」との感想が多くあった。



１０代の子どもたちの

開　催　の　ご　案　内

子育て支援ボランティア養成をすすめる

おとなのサポーター養成講座

子育てをサポートする担い手として１０代の子どもたちの活動が期待されています。子どもの立場にたって　子どもの目線で子どもの子育て支援ボランティア体験を捉え　子どもに寄り添い自主性を引き出していける　「大人のサポーター」を養成します。

２００４年　１２月２６日（日）　９：３０　～　１７：３０

会　　場　：藤女子大学花川キャンパス　藤学園セミナーハウス
石狩市花川南４条５丁目　0133-73-6801

★自分の心や体をいたわり、自己を見つめなおす自己尊重ワークショップ
★１０代の子どもたちの現状★いのちの尊厳についての講座など６講座

受 講 料　：無料（ただし資料代として当日３００円を申し受けます。）

対　　象：子どものボランティア活動を支援している方
興味を持っている方

募集人数：３０名

※受講ご希望の方は裏面申し込み用紙をファックス又は郵送してください。

お問い合わせは　ＮＰＯ法人こども・コムステーション・いしかりまで
061-3282　石狩市花畔2-1　北ガスプラザ
ＴＥＬ／ＦＡＸ0133-64-5640　Email：comstation.ishikari@m2.dion.ne.jp

主催　特定非営利活動法人　子ども劇場全国センター
協力　特定非営利活動法人　こども・コムステーション・いしかり
後援　北海道教育委員会　札幌市教育委員会　石狩市教育委員会

この事業は独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の助成によりおこなっているものです

広島県6講座

実施団体　特定非営利活動法人　子どもコミュニティネットひろしま（旧おやこ劇場ひろしま）

実施日　2004年12月22日（水）・23日（木）　参加人数　のべ124名

	日時	講座名	講師	
講座1	12月22日（水）	「子どもの声を受けとめる」	高木　眞理子氏	子ども夢フォーラム代表 NPO法人チャイルドライン支援センター理事
		子どもと関わる活動をするおとなが持つべき視点は、子どもたちが今何を感じ、考えながら成長しているか、子どもがおかれている社会の状況を理解した上で、おとなとしての役割りを考えること。子どもの本来持っている力を信じ、子どもを見守る、待つということが大事。子どもから選ばれるおとなでありた		
講座2	12月22日（水）	「聴くを受けとめるワークショップ」	高木　眞理子氏	子ども夢フォーラム代表 NPO法人チャイルドライン支援センター理事
		「聞く」と「聴く」の違いを感じるワーク。自分の勝手な思い込みで相手のことを判断している場面が多くあること、相手を受け入れる、受けとめるということに気づくワークショップ		
講座3	12月23日（木）	「命の声を聴く 自己尊重ワークショップ ～フィーリング トレーニング～」	手塚　千砂子氏	NPO法人自己尊重プラクティス協会代表理事 心のレッスンルーム「心のジム　テツカ」主宰
		自分自身の命の営みを内面から感じ取り、自分の中にあるエネルギーに気づくワークショップ		
講座4	12月23日（木）	「命の声を聴く 自己尊重ワークショップ ～ラブライフ トレーニング～」	手塚　千砂子氏	NPO法人自己尊重プラクティス協会代表理事 心のレッスンルーム「心のジム　テツカ」主宰
		自分を誉める、自分の良い所をどんどん出していくことでプラスのエネルギーに変えていくワークショップ		
講座5	12月23日（木）	「生命と命を考える～思春期の子どもたちの状況～」	高橋　克美氏	ぐるーぷイーヨ（子ども自身が自分の性を大切にして生きるための学びの場を広げる活動グループ）
		思春期の子どもたちを取り巻いている今の社会の状況と、子どもたちの性への意識についての説明		
講座6	12月23日（木）	「生命と命を考える～思春期の性～」	安達　紀子氏 高井　吉支子氏	ぐるーぷイーヨ（子ども自身が自分の性を大切にして生きるための学びの場を広げる活動グループ）
		実際に10代の子どもたちに向けて生命・性について行っているワークの内容と、関わるおとなの向きあい方を考え合う意見交換を行う。		

事業を終えて

1日目の講座では、聞くことと聴くことの違いが理解できたようだが、同時にそのことを実践することの難しさも感じていた。聴く姿勢を持つには、おとな自身ゆっくり自分を振り返ることも重要で、2日間のいくつかのワークショップで自分への気づきや、発見があった。それは、子どもと向きあうことは、自分と向きあうことから始まるということ、おとな自身が自分の命を大事にしていくことがまずできないと、他者とのプラスの関係性はできていかないということに気づけたことだ。

また性の問題は、命の誕生からずっと継続して考え続けていく必要があるという視点、日常の中で性の問題をおとなも子どもも、共に語れる関係性を少しづつ築いていく場が大切だという声が聞かれ、講座の企画意図が理解されたようだ。もう少し10代の性の部分を集中して考える場が欲しかったという声もあり、時間配分なども含め今後の課題として捉えていきたい。

当然かもしれないが、実際に子どもと関わる活動を実践している人と、これから関わろうという人と受けとめ方の違いがあり、体験者は実践との結びつきから、講演会、ワークショップともに共感性が高かった。子どもたちと同様、託児現場で実際に体験していく中で本当の意味での気づきや発見ができてくることを思うと、継続的な活動とふりかえりの場が必要だろう。

独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成事業

10代の子どもたちの子育て支援ボランティア養成とおとなサポーター養成事業

おとなサポーター養成講座

10代の子どもたちの活躍の場として、小さな子どもたちへの保育ボランティアを行っています。ボランティアに参加する10代の子どもたちを応援するおとなサポーターの存在は、子どもたちにとってこころ強い味方です。でも、心配の余り手出し・口出し、いつのまにかおせっかいおとなに変身しがち！子どもたちが自分たちの力を出しながら、あてにされる体験・感謝される体験をとおして自分を好きになり人を好きになり、豊かな人間関係の中で育っていく環境づくりを一緒に進めていくおとなサポーター養成講座を実施します。子どもの活動に興味・関心のある方ぜひご参加ください。

日　時：2004年１２月２２日（水）・２３日（木・祝）の２日間

会　場：広島国際学院大学立町キャンパス（広島市中区基町13-7　広電立町電停徒歩１分）

対　象：子どもたちの活動に興味関心のある方

定　員：３０名（２日間参加）　参加費：無料

講座　Ⅰ 講演会 12/22 10:30～12:00	**「子どもの声を受けとめる」** 子どもの活動を応援したいと思っていても、子どもたちが今何を感じ、何を考えながら成長しているのかな、と戸惑うことも多いと思います。すれ違いがちな子どもとの関係を、子どもの心の声を受けとめるという視点で考えてみましょう。 講師：高木眞理子さん（子ども夢フォーラム代表・NPO法人チャイルドライン支援センター理事）
講座　Ⅱ ワークショップ 12/22 13:00～15:00	**「聴くを受けとめるワークショップ」** 「子どもの声を受けとめる」ためには、まずはおとな自身が相手とどれくらいコミュニケーションできているか気付くことから始まります。ワークショップをとおして『聴く』ということ、『心の声を受けとめる』ということを実感してみましょう。 講師：高木眞理子さん（子ども夢フォーラム代表・NPO法人チャイルドライン支援センター理事）
講座　Ⅲ Ⅳ ワークショップ 12/23 9:30～12:30	**「命の声を聴く自己尊重ワークショップ」** 自分自身を価値ある存在として肯定し、自己尊重感・自尊感情を育てることの大切さを実感するワークショップです。子どもも、おとなも本来の自分自身をとりもどす気づきの場になると思います。 講師：手塚千砂子（NPO法人自己尊重プラクティス協会代表）
講座　Ⅴ Ⅵ 12/23 14:00～16:00	**「生命（いのち）と性（いのち）を考える」** 講師：ぐるーぷイーヨ　講座Ⅴ講師（高橋克美）講座Ⅵ講師（安達紀子・高井吉支子） （子ども自身が自分を大切にして生きるための学びの場を広げる活動を始めた広島のグループです） 思春期の子どもたちの生命・性について、かかわるおとなの視点と向き合い方を考え、学びあいます。

お申込は：下記申込書を記入の上、問合せ先までお送りください。（電話・E-mailでも受付ます）

主催：ＮＰＯ法人子どもＮＰＯ・子ども劇場全国センター
実施・お問合せ先：おやこ劇場ひろしま（ＮＰＯ法人(申請中)子どもコミュニティネットひろしま）
〒730-0802　広島市中区本川町2-6-10-304　TEL082-292-6200　FAX082-292-7416
Email:kids.hr@galaxy.ocn.ne.jp　http://homepage3.nifty.com/oyako-hiroshima

---

『10代の子どもたちの子育て支援ボランティアおとなサポーター養成講座』申込書

名　前		どちらかに○をして下さい。 ２日間参加する　・　講演会のみ参加する
住　所	〒　　－	＜現在何か活動をしていらっしゃればお書き下さい＞
ＴＥＬ		E-mail：